

論文要旨

所属ゼミ	高木晴夫 研究会	学籍番号	80830690	氏名	田中 雄
(論文題名) 主題：現代の日本企業における管理職者の環境・資質・能力について 経験知の陳腐化スピードが向上する時代において					
(内容の要旨) < 問題意識 > 1990年初頭から情報技術の進化により企業を取り巻く環境は大きく変化している。それと同時に日本経済の成熟も後押しして、市場のニーズは多様化し、その変化のスピードは工業化時代とは比べものにならないほど向上している。そしてこの変化のスピードに比例して、個々人の持つ経験知や知識の陳腐化のスピードも増してきているといえる。このことは、従来の工業化時代に比べ、過去の経験に基づいた意思決定が意味を持たない、通用しない、不連続の時代環境に変化してきていることを意味している。この結果、従来の日本企業の管理職者において必要な能力として重要視されてきた“長年の経験や知識”が徐々にその重要度を失いつつあり、またその経験や知識を活かせる期間も短くなりつつあることを示している。この情報化時代への変化と並行して、日本ではバブル崩壊による経済環境の悪化があり、長年の間日本企業を支えてきた終身雇用制や年功序列制が崩壊し、それに代わる仕組みとして成果主義が多くの企業で導入された。同じくして、多くの日本企業は、工業化時代を支えてきた従来のピラミッド型の組織からフラット型の組織へとその形態を変化させる傾向にあり、管理職のポストの数は年々減少するとともに、その選抜は一層厳しさを増す傾向にあるといえる。 本修士論文の問題意識は、1990年以降、企業を取り巻く外部環境は劇的に変化し、それに伴い組織形態や評価の仕組みが変化しているにも関わらず、多くの日本企業において管理職者を取り巻く環境や必要とする資質や能力の明確な指針や変化が見られないところにある。 < 研究の目的 > 本修士論文の目的は、情報化時代の到来により未来が過去の延長線上に存在しない不連続の時代において、現代の日本企業における新たな管理職者に求められる資質や能力、そして彼らを取り巻く環境とは一体どのようなものなのかを欧米諸国を中心とした先行研究と照らし合わせながら、現代日本企業における管理職者の実態を調査・分析することにある。 < 研究の意義 > 外部環境の変化にともない、変革を余儀なくされている現代の日本企業において、必要とされている管理職者の資質や能力、おかれている環境の実態を明確にすることは、日本企業の組織の現状をより深く理解し、新たな時代における管理職者の指針を示すことになり、企業の競争力を高めるという意味において、意義のある研究と考える。					